一ノ瀬秀文氏，石井保氏らによる度び重なる人権侵害と組合組織の私物化に抗議する!!

市大教職員組合員
有志　名

一ノ瀬秀文氏を中心とする市大教職員組合の執行部は，最近ことあるごとに当局とボス交渉的会見を行なっています。　たとえば医学部教員会執行部が医学部教授会によりロックアウトされたとき，組合中執は公然と当局に抗議するのではなく，あくまでも非公式なボス交渉によってもみ消しにかかりました。　その結果ロックアウトにまつわる責任の所在をあいまいにしたまゝ闇くもに葬り去られ，全組合員にこの問題に対して正しい認識と対応を取り得なくしました。　さらに組合中執は機動隊導入についても，学内正常化についても，当局とボス会見をしていますが，それによっても全組合員は問題点を知らされない状態にあり，同時に自分達の選んだ執行部の人達が当局に何を要求し，何を追及し，そして何を約束したのか見当さえつかない状態にあります。

私達はこのように一般組合員をつんぼ桟敷におくボス会見には反対です。　会見の詳しい議事録さえ公表されていないことはつね日頃一ノ瀬氏達が私達の耳にタコができるほど言っている民主々義にも反することです。　民主的運営とは単に議決を多数決で行なうとか，直接選挙による代議制をとるとかといった形式面だけでは決定的に不十分です。　それだけならイギリスはもちろん日本の政府でさえ十分民主々義を尊重していると言えるでしょう。

私達は一ノ瀬氏達にすべてを白紙委任しているのではないのです。　中執の活動はすべてガラス張りですべての組合員に見えるように行なうべきです。当局とのボス会見の議事録さえ公表できない状態はきわめて危険であり，様々な腐敗の温床になり，一部の人達による組織の私物化に結びつくものと私達は考えます。

さらに機動隊問題については先日の組合大会（10月31日）の席上，一ノ瀬氏は〝外部権力の介入には反対ではあるが，機動隊常駐は介入ではなく導入であって，大学当局のコントロールのもとにこれを利用しているのだから問題ではない〟と述べています。この発言は組合幹部として，またマルクス経済学者として極めて不適当な発言といわざるを得ません。言うまでもなく警察権力は国家権力の重要な一部分であって，これを一公立大学の学長が利用できると考えるのは逆に自らが国家権力に利用されていることをゴマかした言い分です。　このように初歩的なことが一ノ瀬氏のように経験豊かな人に理解できない筈がありません。　あくまでも一ノ瀬氏達の党派的反対者を追い落すために無原則にも敵の警察力さえも利用しているにすぎないのです。

さらに前書記長の石井保氏は図書館の職場討論集会において〝当局にたてつき，非協力を叫ぶいわゆる造反教官は組合としては全共斗と共に大学から放り出すのだ〟と言っています。　他方石井氏は先日の組合大会においては〝これまで組合活動にあまり積極的に参加してこなかった教員の中で，最近理科系の教員の活動には大変敬服している〟と大変愛想のよい発言をされ，私達を恐縮させました。　一体私達は石井氏のどちらの言葉を信じたらよいのでしょうか？　石井氏は明らかに何枚かの舌といくつかの顔を持っています。　多くの人達の前ではしごくおだやかでにこやかな石井氏と，裏においては彼らに反対する人達に対する非情なまでの抑圧を加える全く別の顔がそこにはあるのです。　すなわち，工学部の西村仁氏が図書館での職場集会における石井氏の発言内容を組合大会で指摘するや，すぐ翌日図書館において〝図書館内にスパイがいる〟と一日中さわぎたて，石井氏達と意見を異にする人達を村八分にしようとさえしています。　石井氏達は〝図書館にスパイがいる〟と言っていますが，職場討論

集会の発言内容を警察とか大学当局に話したのならともかく，同じ職場の親しい組合員に話すことが何故スパイになるのでしょうか？　組合幹部の公的な発言を職場内で話し合うことが村八分にされる理由になるのでしょうか？　私達は決してそうではないと考えます。　はっきりと言って市大の組合はすべてがすべて共産党員か又はその支持者ではないのです。　ある党派に属する人の発言を別の意見を持つ組合員に話したからといってスパイ呼ばわりされたり村八分にされる理由はありません。　このように反対派を村八分にしたり国家権力に売り渡そうとすることこそが正に石井氏達が言う組合民主々義の実体です。

さらに石井氏は"当局にたてついたり非協力を言う造反教官は大学から追放する"と言っているが，一体組合は当局の御用機関にすぎないのでしょうか？また当局に反対して斗ってはいけないのでしょうか？しかも今や市大はいわゆる中教審大学，機動隊大学になりつつあるのです。　一口に非協力教官といっても機動隊大学に反対すると同時に，話し合いこそを解決の手段と考え紛争の原因になった大学の真の改革を主張することが全組合員に敵対することになるのでしょうか？　そして造反者として大学を追われる理由になるのでしょうか？

私達はこの種のパージは党派の利益のからんだ極めてきたないレッド・パージと判断し断固として反対するつもりです。

私達は石井氏に論理の一貫した発言をするように望んでおります。

組合の今年度の運動方針案の中で"大学臨時措置法実体化阻止"を述べながら他方において"機動隊常駐，非常大権，非協力教官追放"を正に大学臨時措置法そのものを先取りした形で当局と組合が一体となって実体化しているのです。　それにもかゝわらず中執は厚顔にも"大学臨時措置法実体化阻止"をうたいつづけているのです。

私達は組合がセクトの私物化から脱して今こそ民主勢力，批判勢力としてよみがえり，この古くさくなった大学を根本的に改革すると同時に70年代の本格的な日本の帝国主義段階における社会矛盾に対しても大胆にたち向っていかなければならないと考えています。

このような社会の激動期を向えて一ノ瀬，石井両氏らを中心とする組合幹部の軽卒な発言は，自らは「組合の統一と団結」を唱えながら事実においては組合が当局に代ってレッド・パージを行なおうとするものであり，組合内に差別と分断をつくり組合の斗う力を切りくずすものと言わねばなりません。

なおこの組合幹部達によるレッド・パージの攻撃は医学部の看護婦，職員にも連日加えられているとのことです。

私達はさらにその事実をも調査した上で改めて組合員の皆様に訴えるつもりです。

私達は各学部において今すぐ人権擁護のための委員会を結成され，特に職員層を中心として加えられている当局と組合幹部からの攻撃から組合員を守る活動を開始されるよう呼びかけます。